

共に生きる～新蟹っ子が考える、世界中の人々が笑顔になれる方法～

所属	愛知県蟹江町立新蟹江小学校	実践者	佐古 亜希子 (G)
対象	小学6年生	時間数	60時間
場所	教室 家庭科室 体育館など	実践教科	総合的な学習の時間 家庭科他
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々や人々に興味を持ち、共通性・多様性を楽しむことができる。 ・日本、世界の課題に、自分たちができることを考え行動することができる。 ・自分たちが学んだこと考えたことを、発信することができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～10	※5年生のときに「世界の国旗」 国旗の由来から国を知り、世界の国々を知る ↓6年生へ	仮説社 世界の国旗
	1～3	【幸せって何だろう?】 (ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら) ①アイスブレイキング ②世界の人口 ③女性と男性どっちが多い? ④大陸ごとに分かれてみよう ⑤世界の言葉でこんにちは ⑥文字が読めない? ⑦100人村を読むディスカッション	世界がもし100人の村だったら
	4・5	【ハンガーバンケット】 (食を通し、世界の格差を模擬体験) ①高所得層、中所得層、低所得層の住人にくじ引きによって分ける。②「世界」の「食(質、量)」を実際に体験し、自分にできることを考え、行動に移す。	オックスファムの体験型ワークショップ
	6・7	【日本・世界ではどんなことがおこっているのか、現実を知ろう】 (日本国際飢餓対策機構の清家さん出前授業) ①世界・日本の現実 ②今の自分にできること ③どんな大人になるのか?	
	8・9	【振り返りトーク】 (アイスブレイキング+今後について) ①初めて知ったトーク ②印象に残ったものトーク ③問題点は何? ④今の気持ちを伝えよう	
	10～13	【先生ガーナへ行く】 (ガーナ&アフリカって?) ①ガーナって?②チョコだ!! ③フェアトレードについて④先生に調べてきてほしいこと⑤自分たちのできること	DVD パワポ
	14～19	【名古屋分散に向けて】 (JICA中部とピース愛知で何を学ぶ?)	
	20～25	【名古屋分散 JICA中部 ピース愛知へ】 (JICAの仕事 シリアについて 戦争について)	
	26・27	【アフリカ?】 (マラウイ 出前授業)	
	28～35	【お帰り先生 ガーナ編】 (ガーナで学んだこと) ①ガーナで学んだことクイズ ②ガーナを食べちゃおう ③ガーナで頑張っている人々 ④ガーナ貧困の輪から断ち切る方法 ⑤10箇条作り ⑥ガーナのゴミ問題から ⑦ガーナ人の考えを聞いて ⑧ガーナのゴミ問題どうしたらいい? ⑨ゴミの負の連鎖から断ち切る方法 ⑩地球サミットの背景 ⑪日本のゴミ問題は? ⑫ゴミを生かさそう(ポーチ作りへ) ⑬地域へ宣伝しよう	パワポ ガーナBOX 派生図 ガーナでの写真 ゴミから再生したポーチ
	36～40	【お帰り先生 ラオス エチオピア フィリピン ガーナ 大学生出前授業】 (海外研修や青年海外協力隊を終えた先生方が出前授業)	
	41～43	【今の僕・私たちにできること】 (学習発表会の台本作り)	
	44～46	【フィリピン ホープ合唱団来校】 (19人の小中学生招待)	
	47～60	【共に生きる 学習発表会で】 (ここまでの国際理解教育で学んだことを練習発表・本番+フィリピンへ何ができるのかを急ぎよ台本に加え本番に動く) ↓(活動予定) 【夢実現】 (卒業式でどんな大人になるのか、どんなことをしていきたいのか宣言する)	
成果	6年生の総合的な学習の時間だけでなく、他教科との絡みも考え授業を展開してきたことは時間の無駄はなかった。また、そのことで子どもたちの普段の生活に国際理解、世界中の人々が共に生きるためにどうしたらいいのかということに常に考えることができた。ガーナだけでなく本物を意識した授業を進めてきた。フィリピンの地震に対して自分たちがしてもらったことは何だったのかを考え動き発信できたことは目標につながったと思う。		
課題	自分の体験が少なく、たくさんの人々に支えられこのような実践ができた。自分自信が子どもに伝えられるものを身につけていかなければならない。どの学年でも取り組むことができるようこれからも年度始めに計画を立てていきたい。		
備考	どの授業の中でもワークショップ型を取り入れていくことで子どもたちへの意欲を高めた。また先生方の研修でもワークショップ型を取り入れ、広めることでどの学年でも取り組むことができるよう努めた。		

[授業実践の詳細]

10-13 時限目「先生ガーナへ行く？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「世界の国旗を思い出そう」…5年生時に学習した世界の国旗をたくさん見せ、その中でガーナの国旗も見る。
- ② 「ガーナってどこだ？」…世界地図で大陸の名前を書き、アフリカのどこにガーナがあるのか思い出す。その後学年通信を読み、先生がガーナに行くことを知る。
- ③ 「ガーナと言えば？」…ガーナと言えばどんなことを思い出すのか答える。
- ④ 「チョコだ！」…2種類のチョコを食べ違いを考える。(写真上)
- ⑤ 「フェアトレードについて」…調べてきたフェアトレードについて発表する。100人村のDVDを観る。児童労働を知る。(写真中)
- ⑥ 「先生調べてきてほしいこと」…ガーナについてどんなことを知りたいのか、調べたり、意見交換したりする。
- ⑦ 「自分たちにできること」…ガーナという国、人、同じ年の子供たちに自分たちができることを考える。(写真下)

この時限のねらい

- ・アフリカがどんなところなのかイメージを膨らませる。
- ・ガーナを身近に感じることができる。
- ・夢をもち、努力することの大切さを知る。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 世界の国旗からガーナを思い出すことは5年生時に学習済みだったので、よくできていた。また、他の国も抵抗なくポップコーン方式で意見が出た。
- ◇ 先生がガーナに行くという通信を読んでいるときは、驚きと未知の世界のことで混乱をしている子どもが多かった。しかし、これからどんな活動をしていくのか、どんなことを一緒に勉強していくのか計画を立てていくのが楽しかったようで、興味をもつことができた。研修について、早めに子どもたちにも知らせることで、一緒に開発教育を実践していくという意識が高まった。また、保護者の協力も得られた。
- ◇ フェアトレードという新しい言葉を聞く子どもも多く、ガーナについて自分たちで調べることができた。その情報から本当はどうかを、実際に行く先生に聞くことができ、自分たちが知りたいことを挙げることもできた。
- ◇ 自分たちにできることは、直接つながっているようなつながっていないようなガーナのことを考え、話し合うことができ、画用紙に書くことができた。また、ギャラリー方式で、周りの班と意見を共有することができた。

3 使用した教材

<教材1> 仮説社「世界の国旗」 <教材2> フジテレビ 世界がもし100人の村だったら DVD

1 子どもの活動の流れ

- ① 「何がおかしい？」…ガーナの写真を見て、環境問題に目を向け、おかしいと思うことを発表する。
- ② 「ゴミ問題？」…ゴミ問題がどうしておきるのか考え、3人グループでゴミ問題が起きる原因や結果が書いてあるカードを並べる。〈写真上〉
- ③ 「負の連鎖から抜け出せるのか？」…負の連鎖の状況を見て、どうこの状況から抜け出せるかを話し合う。〈写真中〉
- ④ 「地球サミット開催の背景」…セヴァン・スズキさんの演説をDVDで観る。
- ⑤ 「負の連鎖から抜け出した事例を知る」…負の連鎖から抜け出した国の事例を見て、自分たちにできることを考える。
- ⑥ 「日本も同じ？」…日本のゴミ問題にも関心を持ち、身近なところからできることを考える。
- ⑦ 「ゴミから？」…ガーナのピュアウォーターの袋から作られているものを見て、日本でも同じことができるということを知る。短時間でもどれだけのゴミがでるのかを集め、ポーチを作る。〈写真下〉
- ⑧ 「地域へ宣言しよう」…学んだことを学習発表会で発表するため、台本を考えていくことを知る。

この時限のねらい

- ・環境問題が、他人事ではなく自分ごとであるということに気づくことができる。
- ・環境問題とはどのようなものなのか、多様な視点から包括的に理解できる。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナの写真にはゴミ問題を考えさせられる写真がたくさんあり、子どもたちは分かりやすかったようだ。意見も多く出され、雰囲気よく始まった。友達の気づいた意見聞くことができ、新しい見方も発見できた。
- ◇ ゴミ問題が起きる理由や原因がスパイラルになることに気づき、負の連鎖から抜け出すことは怠惰や個人の努力不足でないことに気づくことができた。また、個人の努力では悪循環から抜け出すことが難しいことを発見する子どもも多かった。
- ◇ ガーナのピュアウォーターの袋から作ったスーツを見たり、話を聞いたりする出前授業を行ったので、ゴミから作るポーチへのやる気につながった。また、身近なところでもゴミがたくさん出ていることに気づくことができた。
- ◇ 学習発表会の台本作りの一部で、平和を創り出す私たちの10箇条は、グループごとによく考えられたと思う(末尾写真4参照)。



3 使用した教材 <教材1>地球サミット セヴァン・スズキさんの演説 DVD

<教材2> 貧困の悪循環を脱するために必要なもの・役立つこと、できること

1 子どもの活動の流れ

- ① 講師の方がラオス、エチオピア、フィリピン、ガーナ、その他でどんな活動をしてきたのかを聞いたり見たりする。
- ② それぞれの時間によって違うが、ワークショップをしたり、物作りをしたりする。
- ③ どの授業も最後は6年生の子どもたちに大切にしてほしいことやどんな大人になってほしいのかを聞いて終わる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 公開授業や保護者の参加型の出前授業にすることがあったので、子どもたちの興味のもったことなどを家庭にも持ち帰って話してもらえる結果になった。
- ◇ 現地の生の声を聞くことができ、興味をもつことができた。また、知らないことを知ることから開発教育は始まるということが子どもたちの中でも授業を進めていくと定着していることが毎日の日記から分かった。
- ◇ 授業後は、日本と違う文化を聞いて、驚く反応も多かったが「大学生になったら〇〇に行きたいな〜」「海外で昆虫を研究したい」「スリをされても笑顔〜。ある意味日本が異常かも」など講師の方の話を受け入れたり、自分も体験したいという気持ちが高まった会話が多く聞けた。
- ◇ 出前授業ではいつもの授業とは違う新鮮さもあり、毎回学習する意欲が高いことは間違いないと感じた。また、講師の方へどんなことを聞こうか、見せてもらおうかなど、それぞれが課題をもてるよう、毎回出前授業のときは同じ学習シートを使った。

この時限のねらい

- ・ガーナ以外の国々を知り、興味をもつことができる。
- ・講師の方がどんな目的でどんなことを学んできたのかを理解し、共感することができる。
- ・世界中つながっていることを知り、その中で自分はどんな生き方をすればいいのか考え始めることができる。

ラオス出前授業



大学生 出前授業1



フィリピン出前授業



大学生 出前授業2



1 子どもの活動の流れ

- ① ホープ合唱団を迎えるにあたり、日本文化の体験コーナーの準備やタガログ語などを外国語活動の時間に覚える。
- ② 当日はホープ合唱団の合唱を全校で聞く。
- ③ 合唱後は6年生が体育館で日本文化体験コーナーを英語やタガログ語、ジェスチャーで行う。
- ④ 給食を一緒に食べ、写真撮影。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 準備の段階で外国語活動の先生がフィリピンの方なので、タガログ語のあいさつや名前を言うことを教えてもらった。新蟹江小学校は日本語教室という学級もあるため、外国籍の児童も多い。その子どもたちも一緒に参加することができ、身近に感じる事ができたようだ。
- ◇ ホープ合唱団の合唱の中で、歌詞をよく聞くとフィリピンで困っている現状を目の当たりにし、考えさせられる思いで涙が出る子供もいた。〈写真上〉
- ◇ 日本の文化紹介では6年生が6人一組になり、フィリピンの友達一人か二人に6種類の文化を紹介する方式で行った。1時間の中で習字や着付け、お茶などを体験してもらうことができ、自分で考えた紹介方法で行うことができた。日本文化を見直す良い機会にもなった。〈写真中〉
- ◇ 給食を一緒に食べるという経験は、相手の食文化を聞くことができ、お互いの国を知ることにつながった。また、言葉が通じなくても子どもたちはすぐに打ち解けることができ、つながりを感じる事ができた。〈写真下〉

この時限のねらい

- ・同じ年ぐらいの友達と交流し、文化の違いや共通性を自分で見つけ出すことができる。
- ・日本の文化を再確認し、友達に伝えることができる。
- ・フィリピンの子どもたちの生の声を聞き、自分たちに何ができるのかを考える



はし体験

1 子どもの活動の流れ

- ① 群読、劇、合唱などを取り入れ、30分の発表を体育館で行う。
- ② フィリピンの地震があったばかりだったので、前々日に台本を自分たちで書き換え、義援金を募ることをした。
- ③ 終わってから、ホープ合唱団と繋がりのある国際飢餓対策機構の方からお手紙をいただき、様子を聞く。

この時限のねらい

- ・いままで学んできたことを、周りの人たちに発信することができる。
- ・自分たちの考えを再確認し、できることから始めようと行動することができる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 今まで自分たちが学習してきたことを30分の中に込めるため、気持ちの入った発表ができた。観客の涙を見て自分たちが学んでいることをあらためて確信していた。
- ◇ 自分たちの考えた平和を創り出す10箇条は、ギャラリーから宣言用紙を垂らし、発表したため、見ている人の心に訴えかけることができた。〈写真上〉
- ◇ 劇では「世界と地球の困った現実」の中から【美しい村】の物語をアレンジし、発表することができた。〈写真中〉
- ◇ 世界がもし100人の村だったらを、目と耳から感じるができるよう、発表することができた。〈写真下〉
- ◇ 発表会後のアンケートを読むと、家庭でも世界について考え、自分たちを見つめる良い機会になったという意見を多くいただけ、実際に発表した子どもたちは満足しているようだった。



3 使用した教材

- 〈教材1〉日本国際飢餓対策機構 『まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実』
- 〈教材2〉世界がもし100人の村だったら
- 〈教材3〉合唱曲「そして ぼくらは地球」 柚 梨太郎作詞作曲

全体を通して

1 授業の様子

〈写真1〉【ホープ合唱団】

ホープ合唱団の子供たちとの出会いは6年生にとってとても思い出深い、本物との出会いになった。自分たちが聞いたり、写真を見たりしたことが目の前で確認できるということが子どもたちには大きかった。この繋がりをいつまでも大切にしてほしい。



<写真2>【フェアトレード】

JICA中部に自分たちで行き、カフェでランチし、フェアトレード商品を買う。何もかもが初めての体験で、とても大変な一日になったと思うが、たくさんのことを学べた1日になったようだ。店長と最高と笑顔を見せてくれた。自分で買ったフェアトレード商品は大切な思い出の品だ。



<写真3>【ピュアウォーターの袋が！！】

ガーナの出前授業。各務さんがガーナで仕事をされているときに作った、ピュアウォーターの袋から作ったスーツや帽子を6年生が着させてもらえた。ゴミを生きかえさせることに興味をもち、早く自分の作品が作りたいという気持ちにさせてもらえた。ゴミに見えないということがすごい！！



<写真4>【平和を創り出すための10箇条】

学習発表会の中で世界中の人々や動物たちが共に生きるために、平和な社会を作り出すには、どんな事を意識したらいいのか、10箇条にまとめて発表した。その際体育館の上から長い紙を垂らし、大きな声で1～10箇条を言った。この10箇条は事あるごとに子どもたちはつぶやく。すぐに実行できないものがあったとしても、ずっと自分の心の中にしまっておきたいと思う。



- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 無関心をやめ現実を知ろう | 6. 持続可能な社会を創りみんなで取り組もう |
| 2. 水・食料を大切にゴミを減らす | 7. チャンスをみんなですべて平等につかもう |
| 3. ゆずり合う分かち合う気持ちをもつ | 8. 良いことは広めるよう行動しよう |
| 4. 他国とつながり、コミュニケーションを高める | 9. これからの地球を考えて行動しよう |
| 5. 誰とでも仲良く話し合いで解決 | 10. 笑顔を増やそう |

以上